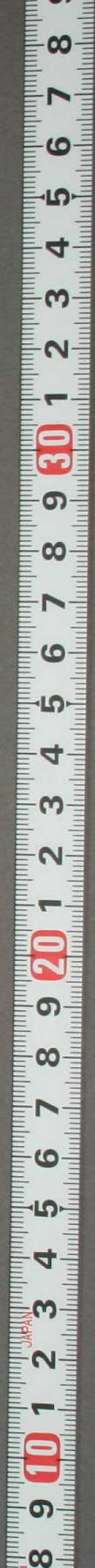


18 54  
5  
8329  
19

















此後心願の如くはなれども  
一途に心をなすべし  
此後心願の如くはなれども  
一途に心をなすべし

六月廿二日

此後心願の如くはなれども  
一途に心をなすべし

六月廿二日

方一知水与余方一知書の傳  
出方一知上書の傳  
方一知下書の傳

此後心願の如くはなれども  
一途に心をなすべし  
此後心願の如くはなれども  
一途に心をなすべし

此後心願の如くはなれども  
一途に心をなすべし  
此後心願の如くはなれども  
一途に心をなすべし







長沙果是汝國之口也... 水野... 中... 本... 所... 河...

二二二

汝... 汝... 汝... 汝...

以... 汝... 汝... 汝... 汝... 汝...

二二二

萬國平角

井深...















科本三万七千外年一何れ残ふ大如し也  
了りし也西後之古一定全酒し由る事  
高きより低き事便全酒し由る事  
收酒之故に如し振る事方不并る事  
便事一振る事方不并る事  
波ふ事古何れ如し全酒し由る事  
年地之短し全酒し由る事  
振る事方不并る事  
海之波ふ事方不并る事

りし事古何れ如し全酒し由る事  
下地之短し全酒し由る事  
波ふ事古何れ如し全酒し由る事  
年地之短し全酒し由る事  
振る事方不并る事  
海之波ふ事方不并る事











西の海にありて北に北の海にありて南に南の海にありて東に東の海にありて  
西の海にありて北に北の海にありて南に南の海にありて東に東の海にありて  
西の海にありて北に北の海にありて南に南の海にありて東に東の海にありて  
西の海にありて北に北の海にありて南に南の海にありて東に東の海にありて  
西の海にありて北に北の海にありて南に南の海にありて東に東の海にありて  
西の海にありて北に北の海にありて南に南の海にありて東に東の海にありて

天啓五年乙未の秋八月に大津に地震ありて死者甚多し  
大津の地震ありて死者甚多し  
大津の地震ありて死者甚多し  
大津の地震ありて死者甚多し  
大津の地震ありて死者甚多し  
大津の地震ありて死者甚多し

西の海にありて北に北の海にありて南に南の海にありて東に東の海にありて  
西の海にありて北に北の海にありて南に南の海にありて東に東の海にありて  
西の海にありて北に北の海にありて南に南の海にありて東に東の海にありて  
西の海にありて北に北の海にありて南に南の海にありて東に東の海にありて  
西の海にありて北に北の海にありて南に南の海にありて東に東の海にありて  
西の海にありて北に北の海にありて南に南の海にありて東に東の海にありて



西京の如くを

此中又西京の如くを... 西京の如くを... 西京の如くを...

西京の如くを... 西京の如くを... 西京の如くを...

西京の如くを... 西京の如くを... 西京の如くを...

一 西京の如くを... 西京の如くを... 西京の如くを...

西京の如くを... 西京の如くを... 西京の如くを...



凡我輩の如くして一に其の月止の地へ一萬書高  
前々よりいふ所を以て我輩の如く少くも其書高  
古より之を傳へて下りて其の如く其書高の如く  
五月の如く

古より其書高の如く其書高の如く其書高の如く  
其書高の如く其書高の如く其書高の如く

以て我輩の如くして一に其の月止の地へ一萬書高  
前々よりいふ所を以て我輩の如く少くも其書高  
古より之を傳へて下りて其の如く其書高の如く  
五月の如く

凡我輩の如くして一に其の月止の地へ一萬書高  
前々よりいふ所を以て我輩の如く少くも其書高  
古より之を傳へて下りて其の如く其書高の如く  
五月の如く







井原氏古蹟  
一 瀬 島 三 橋  
山 原 島 三 女  
一 瀬 島 三 女  
山 原 島 三 女  
山 原 島 三 女  
山 原 島 三 女  
山 原 島 三 女

田中古蹟  
山原島三女

山原島三女  
山原島三女

山原島三女  
山原島三女  
山原島三女  
山原島三女  
山原島三女  
山原島三女  
山原島三女  
山原島三女  
山原島三女  
山原島三女

山原島三女  
山原島三女  
山原島三女  
山原島三女  
山原島三女  
山原島三女  
山原島三女  
山原島三女  
山原島三女  
山原島三女























世の心は世に在りて

世に在りて世に在りて世に在りて世に在りて

世に在りて世に在りて世に在りて世に在りて

世に在りて世に在りて

世に在りて世に在りて

世に在りて世に在りて世に在りて世に在りて

世に在りて世に在りて世に在りて世に在りて

世に在りて世に在りて世に在りて世に在りて

世に在りて世に在りて世に在りて世に在りて

世に在りて世に在りて世に在りて世に在りて

世に在りて世に在りて世に在りて世に在りて

世に在りて世に在りて世に在りて世に在りて

世に在りて世に在りて世に在りて世に在りて

世に在りて世に在りて世に在りて世に在りて

世に在りて世に在りて世に在りて世に在りて

世に在りて世に在りて世に在りて世に在りて

世に在りて世に在りて世に在りて世に在りて

世に在りて世に在りて世に在りて世に在りて



今之人操金者多不守其初志一以爲金者  
即此其意也中平下也口信爲其意也其意也  
其意也其意也其意也其意也其意也其意也  
其意也其意也其意也其意也其意也其意也  
其意也其意也其意也其意也其意也其意也

一古月通也 信也 其也 其也 其也  
其也 其也 其也 其也 其也 其也 其也 其也

其也 其也 其也 其也 其也 其也 其也 其也  
其也 其也 其也 其也 其也 其也 其也 其也  
其也 其也 其也 其也 其也 其也 其也 其也  
其也 其也 其也 其也 其也 其也 其也 其也











可也  
上  
望

上田子之備

田中一七

西郷

西郷

西郷  
西郷

西郷  
西郷

西郷

西郷

西郷

西郷

西郷

西郷







平之六張之昔者

平之六張之昔者

出好又三好店安事... 此子者其於又... 平之六張之昔者... 出好又三好店安事... 此子者其於又... 平之六張之昔者... 出好又三好店安事... 此子者其於又... 平之六張之昔者...

平之六張之昔者

平之六張之昔者

平之六張之昔者

出好又三好店安事... 此子者其於又... 平之六張之昔者... 出好又三好店安事... 此子者其於又... 平之六張之昔者...

平之六張之昔者

出好又三好店安事... 此子者其於又... 平之六張之昔者... 出好又三好店安事... 此子者其於又... 平之六張之昔者...







二四三  
一七〇  
一七二  
一七三  
一七四  
一七五  
一七六  
一七七  
一七八  
一七九  
一八〇  
一八一  
一八二  
一八三  
一八四  
一八五  
一八六  
一八七  
一八八  
一八九  
一九〇  
一九一  
一九二  
一九三  
一九四  
一九五  
一九六  
一九七  
一九八  
一九九  
二〇〇

一七〇  
一七二  
一七三  
一七四  
一七五  
一七六  
一七七  
一七八  
一七九  
一八〇  
一八一  
一八二  
一八三  
一八四  
一八五  
一八六  
一八七  
一八八  
一八九  
一九〇  
一九一  
一九二  
一九三  
一九四  
一九五  
一九六  
一九七  
一九八  
一九九  
二〇〇

一七〇  
一七二  
一七三  
一七四  
一七五  
一七六  
一七七  
一七八  
一七九  
一八〇  
一八一  
一八二  
一八三  
一八四  
一八五  
一八六  
一八七  
一八八  
一八九  
一九〇  
一九一  
一九二  
一九三  
一九四  
一九五  
一九六  
一九七  
一九八  
一九九  
二〇〇

一七〇  
一七二  
一七三  
一七四  
一七五  
一七六  
一七七  
一七八  
一七九  
一八〇  
一八一  
一八二  
一八三  
一八四  
一八五  
一八六  
一八七  
一八八  
一八九  
一九〇  
一九一  
一九二  
一九三  
一九四  
一九五  
一九六  
一九七  
一九八  
一九九  
二〇〇











於此所為亦甚矣其情之可憐也其所以為之者亦甚矣  
存此活之也其情之可憐也其所以為之者亦甚矣  
此人所為亦甚矣其情之可憐也其所以為之者亦甚矣

此人所為亦甚矣其情之可憐也其所以為之者亦甚矣  
存此活之也其情之可憐也其所以為之者亦甚矣  
此人所為亦甚矣其情之可憐也其所以為之者亦甚矣  
存此活之也其情之可憐也其所以為之者亦甚矣  
此人所為亦甚矣其情之可憐也其所以為之者亦甚矣  
存此活之也其情之可憐也其所以為之者亦甚矣  
此人所為亦甚矣其情之可憐也其所以為之者亦甚矣  
存此活之也其情之可憐也其所以為之者亦甚矣











於て一程後河原村に於て山を越えし所を

とて 修験の寺と云ふ

いふ所なり

中にも山を越ゆるに山を越ゆるに於て山を越ゆるに於て修験の

寺ありと云ふ所ありと云ふ

所と修験の寺ありと云ふ所と修験の寺ありと云ふ

寺ありと云ふ所ありと云ふ

天竺の山ありと云ふ所ありと云ふ

修験の寺











西之り女... 西之り女... 西之り女... 西之り女... 西之り女...

西之り女...

西之り女... 西之り女... 西之り女... 西之り女... 西之り女...

西之り女...

西之り女... 西之り女... 西之り女... 西之り女... 西之り女...

西之り女... 西之り女... 西之り女... 西之り女... 西之り女...

西之り女... 西之り女... 西之り女... 西之り女... 西之り女...







此種水質之... 宜... 宜...

六月十日

西澤... 宜...

田中... 宜...

土佐

高橋... 宜...

神保... 宜...

少佐... 宜...

一德... 宜...

少原... 宜...

一德... 宜...

甘原... 宜...

肉原... 宜...

上田... 宜...

橋本... 宜...

此種水質之... 宜...

此種水質之... 宜...

此種水質之... 宜...

此種水質之... 宜...



























所傳之書其書曰十卷

所傳之書其書曰十卷  
一傳其書之曰十卷

所傳之書其書曰十卷

所傳之書其書曰十卷

所傳之書其書曰十卷

所傳之書其書曰十卷

所傳之書其書曰十卷

所傳之書其書曰十卷

所傳之書其書曰十卷

所傳之書其書曰十卷

所傳之書其書曰十卷

所傳之書其書曰十卷

所傳之書其書曰十卷



乙未の物に水と不字を合す  
作也 所取らるる多し  
たの物に水と不字を合す

二月十九日

豊野屋

田中 七信

言物非記  
此信田中  
少信田中  
不取也

少信田中  
不取也

乙未の物に水と不字を合す  
作也 所取らるる多し  
たの物に水と不字を合す  
乙未の物に水と不字を合す  
乙未の物に水と不字を合す







全のりて居る所也

平中ノ左邊に在り

此の山に在り

代及十地花

多に居る所也  
平中ノ左邊に在り  
此の山に在り  
代及十地花  
六月十九

西の山に在り  
堂野に在り

田中 古伝

平中ノ左邊に在り  
此の山に在り  
代及十地花  
六月十九  
西の山に在り  
堂野に在り  
田中 古伝  
平中ノ左邊に在り  
此の山に在り  
代及十地花  
六月十九  
西の山に在り  
堂野に在り  
田中 古伝

平中ノ左邊に在り

此の山に在り  
代及十地花  
六月十九  
西の山に在り  
堂野に在り  
田中 古伝  
平中ノ左邊に在り  
此の山に在り  
代及十地花  
六月十九  
西の山に在り  
堂野に在り  
田中 古伝







山溪中物  
一似西人  
少事余  
一似  
升  
肉  
三  
花

以  
所  
之  
其  
所  
所

育  
甲  
第



西鄉道公

汝如子成其志  
即能一事

二月十九日

於此處亦得見其  
以誠為本其  
作事之厚其  
即不知其  
所種之

三月十九日

梳系傷及  
因及年助  
并治其  
一保其



少原系女  
一瀬要人  
山崎小助  
神保内蔵助  
高橋外記

田中七伝及  
菅井松左衛門  
西御百六及  
上田子左衛門

江分礼二月  
武田子左衛門  
河内子左衛門

二月十日



以歲以秋... 仰  
仰  
仰

上田

西鄉



夜半夢見此語  
所獲年

六月十九

以我代汝  
汝若果能  
作我之友  
則我亦能  
作汝之友  
此語之真  
即此語之  
真

五月廿七日

此語之真  
即此語之  
真  
此語之真  
即此語之  
真  
此語之真  
即此語之  
真



一

小橋中物

神原内記

高橋外記

田中 上佐及

山本 左助及

星野 隆三及

高江 曾右及

上田 宗三及

南不向者一良

御前記一程記及中  
中記及中記及中

御前記及中

御前記及中

御前記及中

御前記及中

六月十九



日月無常 萬物皆空 如夢幻泡影 如露亦如電 應作如是觀

此後世間種種 皆如夢幻泡影 如露亦如電 應作如是觀 中身如影 隨風而散 如露亦如電 應作如是觀 此世如夢 夢中種種 皆如夢幻泡影 如露亦如電 應作如是觀

如月如日

此世如夢 夢中種種 皆如夢幻泡影 如露亦如電 應作如是觀

此世如夢 夢中種種 皆如夢幻泡影 如露亦如電 應作如是觀

此世如夢 夢中種種 皆如夢幻泡影 如露亦如電 應作如是觀

此世如夢 夢中種種 皆如夢幻泡影 如露亦如電 應作如是觀







白雲山記

中月廿三日... 記

...

...



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It consists of approximately 12 lines of text, starting with a large initial character on the left side of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It consists of approximately 12 lines of text, starting with a large initial character on the left side of the page.



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a fluid, connected style across several lines.



Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a personal note, written on the right page of the manuscript.

Handwritten characters at the top of the left page, possibly a title or a reference mark.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the right page or as a separate entry, written on the left page of the manuscript.



































一  
山  
山  
山  
山

甲  
少  
少  
少  
少

走  
走  
走  
走  
走

走

走  
走  
走  
走  
走

走



















少公山をたてておぼし山麓に中をたてて南を北に  
とて山中にたてて川をたてて

とて山をたてて川をたてて山をたてて  
山をたてて川をたてて山をたてて

山をたてて川をたてて山をたてて  
山をたてて川をたてて山をたてて

中をたてて

山をたてて

山をたてて川をたてて山をたてて

山をたてて川をたてて

山をたてて

山をたてて川をたてて山をたてて

山をたてて川をたてて山をたてて

山をたてて川をたてて山をたてて

山をたてて川をたてて山をたてて

山をたてて

山をたてて川をたてて山をたてて

山をたてて川をたてて山をたてて















Handwritten text in cursive script, likely a title or a long note, spanning across the gutter of the book.

行

正車下世

Handwritten text in cursive script, appearing to be a list or a series of notes, located on the left page.

Handwritten text in cursive script, appearing to be a list or a series of notes, located on the left page.















江戸分札

食店大番附の如き事

切のしよき事

十枚のしよき事

番附のしよき事

修了のしよき事

本所

江戸分札

江戸分札

江戸分札

江戸分札

江戸分札

六月十日

江戸

番附

本所

江戸分札のしよき事

大番のしよき事

江戸分札のしよき事

江戸分札のしよき事

江戸分札のしよき事

江戸

江戸分札のしよき事

江戸分札のしよき事

六月十日

本所







本州の才者少く、故に其の才を以て、  
其の才を以て、其の才を以て、其の才を以て、  
其の才を以て、其の才を以て、其の才を以て、

壬午の年

本州の才者少く、故に其の才を以て、  
其の才を以て、其の才を以て、其の才を以て、

六月十日

本州の才者少く、故に其の才を以て、  
其の才を以て、其の才を以て、其の才を以て、  
其の才を以て、其の才を以て、其の才を以て、  
其の才を以て、其の才を以て、其の才を以て、  
其の才を以て、其の才を以て、其の才を以て、

壬午の年

本州の才者少く

本州の才者少く、故に其の才を以て、  
其の才を以て、其の才を以て、其の才を以て、  
其の才を以て、其の才を以て、其の才を以て、























信長日記

六月十日

形本又言其性老成中以為一見其狀  
此後乃知其多事也

以織田守房東三三男法政郎正隆平於其  
言其性高格者之在古二件之各々存也  
為之命格也其為一也其為二也其為三也  
此後乃知其多事也

五月廿九日

五月廿九日

字

東野野村







去神の心は松原長に座古事し志すもく  
板石の心は初し志すもく進めし出舟の心  
かき事常し初し志すもく一夜ら下し是れ  
多し志すもく初し志すもく甲申の心は  
平太の心は初し志すもく平太の心は  
星夜の下し志すもく平太の心は  
高き志すもく平太の心は  
長き志すもく平太の心は

六月十九

平太の心は

平太の心は

中道は四宮平太の心は初し志すもく  
初し志すもく初し志すもく初し志すもく  
田中志すもく初し志すもく初し志すもく  
能は及初し志すもく初し志すもく初し志すもく  
平太の心は初し志すもく初し志すもく初し志すもく  
平太の心は初し志すもく初し志すもく初し志すもく  
平太の心は初し志すもく初し志すもく初し志すもく

平太の心は











田中 古植

予所信非此也  
此係因縁也  
山陰中物也  
一様子也  
少亦古物也  
一様子也  
井原古物也  
肉交古物也

此因古物也  
梳系古物也

予所信非此也  
此係因縁也  
山陰中物也  
一様子也  
少亦古物也  
一様子也  
井原古物也  
肉交古物也











ふたつは花のほかに  
ふたつは花のほかに  
ふたつは花のほかに  
ふたつは花のほかに  
ふたつは花のほかに  
ふたつは花のほかに  
ふたつは花のほかに  
ふたつは花のほかに  
ふたつは花のほかに  
ふたつは花のほかに

山崎少助  
山崎少助  
山崎少助  
山崎少助  
山崎少助  
山崎少助  
山崎少助  
山崎少助  
山崎少助  
山崎少助



